

2007年10月に警察庁などがシートベルト着用状況を全国調査したところ、着用率は、一般道では運転者95%、助手席同乗者86%、高速道等では同99%、94%と前年に比べ向上しました。

しかし、後部座席同乗者の着用率は、一般道で88%、高速道等で13.5%と、依然としてきわめて低い状況でした。シートベルトを着用していなかったときの致死率(06年中)は、運

シートベルト着用を

転席で着用時の約46倍、助手席で同約10倍、後部座席同乗者で同約4倍でした。シートベルトをしていないと、衝突時に、前部座席の乗員はフロントガラスなどに叩き

つけられて大ケガをしたり、後部座席の同乗者が前方に投げ出され、前部座席の乗員に衝突して傷害の程度がより重くなることもあります。ぜひ乗員全員の着用を。



交通安全0メモ